

横浜市幼保小連携推進地区

菊名地区 活動報告

(2021年度)

・推進テーマ

「子どもの育ちと学びをつなぐ

幼保小の交流と接続期カリキュラム編成」

・設定の理由

近隣の園と行っている小学校への円滑な接続と双方の更なる活動の充実を目指すため。

・内容

カリキュラムの実践を行う中で、幼児・児童の資質・能力を育てる手立てや学びの連続性に関わる教育的効果を検証する。

【テーマに向けた取組】

○教職員の連携に関すること

①情報共有

・子どもの活動の参観と施設見学

6月に1年担任が菊名愛児園を訪問。施設内を見学し、園児の活動を参観した。園のカリキュラムを見ながら、年間の活動や年長の園児が就学に向けてどのような準備をするかなどについて情報共有を行った。

1月に菊名愛児園の職員が、菊名小学校を訪問。主に1年生の活動を参観した。

⇒保育園や小学校を実際に訪問し合うことで、子どもの実態や課題を把握することができた。幼保小のスムーズな接続のための手立てについて、具体的に検討することができた。

②合同研修会 1

○横浜創英大学教授 大内美智子先生をお招きして合同研修会を開催。

「二年目の幼保小連携に期待すること」

・幼稚園、小学校、中学校、高等学校までの接続を大切にしながら、資質・能力の育成を目指す。

・それぞれの時期に育てたい姿を明確にすること、主体的・対話的で深い学びを通して、資質・能力を育てることが重要。

②合同研修会 2

- ・子どもにとって身近で心をゆさぶる教材や学習活動
 - ・子ども自らが解決していく、問題解決的・探究的な単元の流れ
 - ・話し合い、対話的に解決していける学級集団
- ⇒ 資質・能力の育成につながる。

☆教師に求められること

子どもの見取り・学級集団づくり・教材研究（魅力ある授業づくり）

⇒ チーム菊名として取り組むことが重要
～学校としての探求～

○幼児・児童の交流活動に関すること

①あきあそびのおもちゃをプレゼント

1年生



少し難しいほうがおもしろいかな。長い竿と短い竿で楽しんでくれるといいな。



高い所からドングリを落としたほうがよく転がって、楽しんでもらえるんじゃないかな。



輪が小さいとなかなか入らないから、愛児園の子のために、もっと大きな輪にしようよ。



こんなふうに、おもちゃがつかれるんだね。



愛児園

マラカスおもしろいな。



秋の落ち葉で神経衰弱ができるんだ！すごい！



どんぐりゴマ上手に、回せたから、お兄さん、お姉さんに教えたいな。

園の子のために！と一生懸命に試行錯誤しながらおもちゃを作り上げることができた。相手意識をもつことで、より深い学びにつながった。
愛児園でも、「小学校に入ったらこんなおもちゃを作るんだ！」と楽しみが膨らんでいた。

○成果と課題

【成果】

・小学校の職員が、愛児園の訪問をしたことで、より子どもの様子がわかったり実態を把握したりすることができた。また、小学校、愛児園の職員間交流を行っことで、情報交換や幼児教育・小学校教育の違いやつながりを話し合うことができた。

・愛児園・小学校ともに、幼保小連携の書籍を活用し、学び合うことでカリキュラムの編成を見直すことができた。来年度のスタートカリキュラムの実践に生かしていきたい。

・昨年度共通の大型絵本を購入したが、今年度はそれに加えて5年生の読み聞かせをするので、新6年生と新1年生のつながりが増えた。それにより、入学への期待や安心感につながったと思う。

・なかなか会えなかったが、相手意識をもったおもちゃ制作や学校紹介をすることで、「お兄さん・お姉さん」の気持ちが芽生え、来年の1年生が入学してくることを楽しみにすることができた。

【課題】

・感染症予防のため、愛児園の職員が小学校への訪問をすることができなかった。

・子どもの活動が制限されてしまったので、園児と直接会うことができなかった。そのため、初めは相手意識をもつことが、難しい児童もいた。

②昔遊びのコツを伝授！



ひざを使うといいよって教えてあげなきゃ！



まずは、自分達が上手にならないと！たくさん練習しよう！



1年生で、昔遊びの学習をするよって伝えてあげよう！

プレゼントする「ダルマおとし」には、顔を書いて楽しいものしようよ！

愛児園と同じ昔遊びのおもちゃを購入。だるま落としには、1年生がイラストを描いて、プレゼント！

愛児園の子が「やってみよう！」と興味・関心をもてるように、イラスト入りの「だるま落とし」をプレゼントすることにした。同じおもちゃがあることで、1年生になったときの学習に見通しをもち、安心することにつながった。1年生も園児が楽しめるようにと、夢中でコツを探していた。

③花の育て方を伝えよう！

○5年生！
新入生のために花を植えよう

- ・愛児園でも、同じ苗を育てる。
- ・5年生が、植え方や花の説明、育て方がわかるようなポスターを送る。



5年生は、最高学年になる自覚が芽生え始める。園児は、来年の6年生とつながることで、小学校が安心できるところ、楽しそうなところだと期待できるようにしたい。

⑤ようこそ菊名小！学校は楽しいよ♪（予定）

僕たち・私たち、小学校に入学するの楽しみだったけど、少し不安なこともあったよ。どんなことが楽しみか、不安か園児のみんなに聞いてみよう！お手紙を書こう！

- ①1年生が、園児にお手紙を書く。
- ②園児から「たのしみなこと」「しんぱいなこと」のお返事をもらう。
- ③学校が楽しい所で、安心ことができるように、写真や絵入りのポスターや掲示物を作成。
・勉強 ・休み時間 ・給食 ・行事 ・教室 ・先生など
- ④愛児園に、送ってみてもらう。
- ⑤感想をもらう。



④絵本の世界へ一緒にいこう！（予定）



○大型絵本で感想交流

- ①小学校、愛児園で同じ絵本を用意する。
- ②1年生には、教師が読み聞かせをする。園児には、5年生が読み聞かせをした動画をプレゼントする。
- ③1年生と園児で、本の感想を書いた紙を送り合って感想交流をする。

○シリーズ化してある本の続きを楽しみに……
「バムとケロ」「のらねこぐんだん」シリーズの半分を小学校に、もう半分を愛児園に置くことで、小学校への楽しみな気持ちと図書室への期待を膨らませたい。

○成果と課題

【成果】

・小学校の職員が、愛児園の訪問をしたことで、より子どもの様子がわかったり実態を把握したりすることができた。また、小学校、愛児園の職員間交流を行ったことで、情報交換や幼児教育・小学校教育の違いやつながりを話し合うことができた。

・愛児園・小学校ともに、幼保小連携の書籍を活用し、学び合うことでカリキュラムの編成を見直すことができた。来年度のスタートカリキュラムの実践に生かしていきたい。

・昨年度共通の大型絵本を購入したが、今年度はそれに加えて5年生の読み聞かせをするので、新6年生と新1年生のつながりが増えた。それにより、入学への期待や安心感につながったと思う。

・なかなか会えなかったが、相手意識をもったおもちゃ制作や学校紹介をすることで、「お兄さん・お姉さん」の気持ちが芽生え、来年の1年生が入学してくることを楽しみにすることができた。

【課題】

・感染症予防のため、愛児園の職員が小学校への訪問をすることができなかった。

・子どもの活動が制限されてしまったので、園児と直接会うことができなかった。そのため、初めは相手意識をもつことが、難しい児童もいた。